様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年　５月３１日現在

機関番号：３２６８３
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2009～2011
課題番号：21520071
研究課題名（和文）近代日中キリスト教関係史研究

研究課題名（英文）History of Sino-Japan Relationship from Perspective of Christianity

研究代表者
渡辺　祐子（WATANABE YUKO）
明治学院大学・教養教育センター・准教授
研究者番号：20440183

研究成果の概要（和文）：近代以降の日中関係にキリスト教がどのように介入したのかという研究課題に関しいくつかのテーマについて考察を行ったが、論文公刊という形で成果を発表できたのは、「20 世紀初頭の中国人学生留日事業とキリスト教のかかわり」および「日本人キリスト教宣教師の満州伝道」のふたつである。前者はキリスト教超教派組織 YMCA が中国人留学生事業を通じ日中交流を積極的に担ったことを明らかにし、後者は戦後礼賛されてきた旧満州熱河地方における日本人宣教師による中国人・蒙古人伝道が、軍の宣撫活動の一端に明らかに位置づけられていたことを検証しつつ、この伝道事業を 1860 年代にはじまるプロテスタント満州伝道史にどのように位置づけるべきかを論じた。

研究成果の概要（英文）：During three research years, papers were published mainly on the following two important issues, “How Christianity influenced the enterprises of education of Chinese students in Japan in early 20c” and “Christian missions in Manchuria by Japanese missionaries.” The former one inquires how YMCA took an important role in sending Chinese students toward Japan. Another one proves that Christian missions by Japanese missionaries in Jehol Area of Manchukuo apparently contributed to the Japanese military occupation and considers how Japan mission should be positioned in the history of Christian missions in Manchuria.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総　計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：哲学・宗教学
キーワード：キリスト教・日中関係・近代史

１．研究開始当初の背景

本研究の広義の目的は、すでに長い研究蓄積のある近代日中関係史研究にキリスト教を介した相互交流という新たな視点を加えることであった。

キリスト教を介した日中関係史につながる日本国内の研究として、幕末維新期における漢訳聖書等、漢訳キリスト教関連書籍の流

入が、日本の知識人に与えた影響に関する考察がある。しかしこの研究は、中国からの一方的な書籍流入に基づく関係に注目したもので、相互交流に対する関心は決して高いとは言えず、「日本キリスト教史」の枠内にとどまるものであった。

一方 1990 年代からキリスト教史研究が盛んになった中国においては、一国史的研究のレベルを超えて、東アジアにおけるキリスト教伝道の展開を比較考察することに大きな関心が集まってきていた。しかし言語上の障壁も手伝って、日中関係に的を絞った研究は、本研究開始当初から今日に至るまでほとんど行われていない。一部、満州国建国から日中全面戦争期における、日本によるキリスト教伝道と中国侵略とのかかわりが研究されてはいるが、日本語資料が十分に活用されておらず、いまだ初歩的段階にとどまっているといえる。

資料については、キリスト教各派の海外伝道局と現地宣教師との書簡を主とする膨大な量の宣教師アーカイヴ、同じく日本のキリスト教界の定期刊行物、議事資料、書簡、中国で出版されていたキリスト教関連雑誌とそろってはいるものの、日本国内でアクセスできるものはまだ限られている。ただし宣教師アーカイヴは、本研究の開始当初からすでにマイクロ化、さらには基礎資料を中心にデジタル化が進みつつあり、各地の海外伝道局所在地まで出かけなくとも入手することが容易になっていた。この傾向は今後ますます加速するものと思われる。

２．研究の目的

（１）中国における中会（Presbytery）の形成とその日本への影響に関する研究

1872 年の日本キリスト公会成立以後の教会形成（中会形成）に、その 10 年前にすでに中国で達成されていた中会形成の経験がどのような影響を与えたのかを、在華、在日宣教師間の連携、日中キリスト教指導者の交流を中心に考察する。

（2）日中キリスト教教育事業に関する研究

①　清末の留日事業と在華キリスト教教育事業との関連について

張之洞の発案に基づいて始まった日本への留学事業は、1905 年ごろピークを迎えるが、これまでの留日事業研究は、キリスト教との関わりをごくわずかしか考慮していない。こうした点に鑑み、日中関係と米中関係とが交差する状況の下で、留日事業に関しどのような議論が交わされたのかを、当時日本のみならず東アジアにおけるキリスト教教育に重要な役割を果たした超教派団体、YMCA に着目しつつ考察する。

②　宗教教育に対する規制をめぐる日本と中国の対応

1899 年にいわゆる文部省訓令 12 号問題に際して日本のキリスト教学校がとった対応が、20 数年後同じような法規制を受けることになる中国のキリスト教学校に、いかなる影響を与えたのかを明らかにし、訓令 12 号問題を東アジアにおけるキリスト教学校とナショナリズムとの関連という視点から、より普遍的な宗教教育に対する規制としてとらえなおす。

（3）これまで十分に明らかにされてこなかった旧「満州国」における日本人宣教師によるキリスト教伝道の実態を解明し、日本人による伝道事業を、1860 年代に始まる満州キリスト教伝道史の中にどのように位置づけるべきかを考える。

３．研究の方法

（1）本研究の方法は資料の収集と解読を中心とする。主たる資料は、各プロテスタント教派海外伝道局の missionary archives（主にマイクロ資料）、キリスト教関連雑誌、日本の教会の会議記録（中国の教会記録は散逸していて入手困難）、日中ミッションスクール理事会記録である。特にマイクロ資料の購入を進めつつ、そのほかの必要資料の購入、複写を行い、それらを手掛かりに研究を進める。

（2）上記の方法に加えて、「満州国伝道」当時を知る日本人キリスト者へのインタビューを行い、研究目的（3）の考察のための一資料とする。

４．研究成果

（1）日中両国教会の中会形成については、双方の中会形成に関わったアメリカ改革派

教会の宣教師資料や二次資料によって中国における中会形成の様相を明らかにし、日本側の教会資料によって、両中会間に 1870 年代すでに交流があったことを突き止めた。中国では 1860 年代に、本国の海外伝道局の反対を押し切る形で教派を超えた中会を形成するという画期的な動きがみられるが、このことが、十数年後の 1877 年に中会を築く日本の教会（日本基督公会）に具体的にどのような影響を与えたのかを示す決定的な資料を発見するまでには至らなかった。今後継続して取り組むべき重要な課題である。

（2）①の清末留日事業とキリスト教の関わりについては、米ミネソタ大学所蔵の YMCA Archives に依拠し、1906 年に東京に設立された中華 YMCA が、それまで留学生の拠点であった留学生会館にとって代わり、この事業全般に極めて重要な役割を果たしたことを解明することができた。従来は 1905 年を境に留学生の波が日本からアメリカに大きくシフトした背後に、キリスト教界の強力な主張があったとされてきた。すなわち、日本の留学環境が中国人学生にとってキリスト教的倫理に照らして理想とはおよそ程遠く、彼らをますますキリスト教から遠ざける負の効果しかもちえないと判断した在華宣教師たち、なかでもアメリカ人宣教師が、留学先を日本からアメリカへ大きく変えるよう盛んに主張し、留米事業を宣教事業の大きな柱として位置づけたというものである。確かにこうした動きはあったものの、実態はより複雑であり、キリスト教関係者は留日事業にも変わらぬ関心を持ち続け、日本で学び続ける中国人学生たちのための学習、生活、情報共有、交流の拠点として中華 YMCA を設立させたのである。この一連の過程を一次資料を基に明らかにし、論文として発表した。

またこの研究の成果の一端は、2009 年中国武漢で開催された国際学会においても発表されたが、現在も水道橋で運営されている韓国 YMCA との比較を試みたこともあり、中国人研究者のみならず、韓国人研究者からも高い関心を集めた。

日中それぞれの宗教教育規制とキリスト教学校を比較考察するサブテーマ②については、議論の大前提として必要な「1920 年代の中国における反キリスト教運動」「キリスト教が享受していた不平等条約上の特権の放棄」についての掘り下げを行った。またこのテーマに間接的にかかわってくる 1910 年代の孔教国教化論議について考察し、論文を発表した。キリスト教主義教育の貫徹とは、教育の場における信教の自由の権利行使という面を含む。この論文では、信教の自由を掲げた中国人キリスト教会、中国人キリスト者が、宣教団体に依拠せずして反対運動を起こし、国教化法案を廃案に追い込んだ過程を検証し、このことが中国人教会の自立を促進したことを論じた。

しかし、こうした信教の自由の戦いの経験は、キリスト教学校に対する宗教規制を受け入れることとは明らかに矛盾する。この点については、その間 1920 年代半ばに起こった教育権回収運動の影響を中心に据えつつ、今後継続して考察を進めてゆく。

（3）1932 年、旧「満州国」に東亜伝道会が設立されると同時に開始された日本人宣教師によるキリスト教布教は、今日では軍の宣撫活動の一翼として批判的にとらえられているが、熱河省における伝道活動、いわゆる熱河伝道は、純粋無垢の業として記憶され続けている。その記憶のあり方を批判的に考察した。

いわゆる熱河伝道の脱神話化を狙ったこの研究では、日本人宣教師の伝道地が、三光作戦と無人区政策がとられていた地域とほぼ重なることを示し、さらに宣教師らが未踏の地に赴いたという美談を、イギリスの宣教師資料 Conference of British Missionary Societies Archives に依拠して否定、日本人が入る以前にすでにスコットランド長老教会、アイルランド長老教会、兄弟会のミッションが入っており、対米開戦に伴って帰国を余儀なくされた連合国側の宣教師に代わって、日本人宣教師が教会運営を行ったことを明らかにした。

また同宣教師資料に基づき、旧満州における日本人キリスト教伝道を、儒教=礼教に基づく国民道徳と国家神道との緊張関係、満州国の宗教政策、キリスト教学校の神社参拝への対応等の観点から考察した。宗教規制とキリスト教教育の対立、葛藤の問題を扱っている点で、この考察は（2）のテーマと共振するものである。

日本のキリスト教指導者たちによる植民地伝道や、日本の教会が容認し人々に要求した

神社参拝問題は、主に植民地朝鮮研究の領域で扱われることがほとんどで、満州国を対象としたものは多くなく、さらに宣教師資料を用いた研究は非常にまれである。その意味からも本研究は、研究史上の空白を埋める上で重要な意味を持つと思われる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

① 渡辺祐子、もう一つの中国人留学生史―中国人日本留学史における中華留日基督教青年会の位置、カルチュール、査読無、第 5 巻、2011、11-24 頁。

② Yuko WAATANABE, The Chinese YMCA in Tokyo: China-Japan Relations form the Perspective of Christian Education, *Christian Presence and Progress in North-East Asia Historical and Comparative Studies: Studies in the Intercultural history of Christianity*, 査読有, vol.153, 2011, 126-142.

③ 渡辺祐子、荒井英子、張宏波、日本のキリスト教と植民地伝道:旧満州「熱河宣教」の語られ方、PRIME、査読無、vol.31, 2010, 15-56 頁。

④ 渡辺祐子、民国初期における信教の自由と中国キリスト教会（1913-1917 年）―「孔教国教化」への対抗運動を中心に―、キリスト教史学、査読有、第 63 集、2009、81-107 頁。

〔学会発表〕（計 3 件）

① 渡辺祐子、満州における日本の植民地支配とキリスト教伝道―戦後日本の教会は何を記憶したか、西南学院大学アジア平和研究会共同シンポジウム「東アジアにおける平和の構築:中国東北地域の改革開放と経済・社会・思想の変容」、2012 年 2 月 17 日、西南学院大学。

② 渡辺祐子、中基留日基督教青年会の成立―基督教教育事業から見る近代日中関係史―、第 4 回アジア教育学会、2009 年 11 月 3 日、専修大学

③ 渡辺祐子、On the Chinese YMCA in Tokyo: Christianity and China-Japan Relations,1898-1907, International Conference of North East Asia Council of Studies of History of Christianity, Aug.25, 2009, Huazhong Normal University, China.

〔図書〕（計 2 件）

① 石剛監修、渡辺祐子、浜田ゆみ等共訳、「牛鬼蛇神を一掃せよ」と文化大革命―制度・文化・宗教・知識人、三元社、2012 年、113-194 頁（総ページ数 426）。

② 渡辺祐子、荒井英子、張宏波、日本の植民地支配と「熱河宣教」、いのちのことば社、2011 年、19-51 頁（総ページ数 111）。

６．研究組織

(1)研究代表者
渡辺 祐子（WATANABE YUKO）
明治学院大学・教養教育センター・准教授
研究者番号：20440183

(2)研究分担者
該当なし

(3)連携研究者
該当なし